

高等学校における共通教科担当教員配置の現状 —情報科の状況を中心に—

Situation of Placement of Teachers Teaching Common Subjects in High Schools -Focus on Information Studies-

深谷 和義

Kazuyoshi FUKAYA

相山女学園大学教育学部

School of Education, Sugiyama Jogakuen University

Email: kfukaya@sugiyama-u.ac.jp

あらまし：高等学校において共通教科を担当している教員配置の現状を、愛知県内の公立高等学校を対象に調査した。まず、各学校に対して、教科ごとの教員人数と週担当時数を教員の職名別で調査した。その際、複数教科を兼務している教員の状況も調べた。また、学科別でクラス当たりの週担当時数の傾向についても調査した。その結果、教諭の人数の割合が低いのは芸術と家庭で、教諭の週担当時数の割合が低いのは芸術、情報、家庭の順だった。また、情報だけ突出して複数教科兼務の教諭が多いことが分かった。さらに、学科によって、教員配置の状況が異なる傾向にあった。

キーワード：高等学校、共通教科、教員配置、情報科、愛知県

1. はじめに

公立高等学校における1学級の生徒の数は、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」において、40人が標準とされている。また、教諭等の教員数についても、同法により標準が定められている。

一方、学級規模を小さくしたり少人数指導形態等を取り入れたりすることが児童生徒に好影響を与えることが言われている⁽¹⁾。そのため、少人数指導やTT (Team Teaching) 実現のために、各学校に対して、教員が加配されている。

しかしながら、配置・加配されている教員には、教諭等の正規雇用教員だけでなく、非常勤講師等の非正規雇用教員も含まれる。本来は、教員採用試験に合格した正規教員のみが教えることが、教育の質を保証するために望まれる。

本研究では、共通教科を中心に、学校における教諭、非常勤講師といった職名別での教員配置の現状を明らかにする。

2. 各学科に共通する各教科

高等学校の学科には、普通科、専門学科（農業科、工業科、商業科等）及び総合学科がある。各学科に共通する教科（共通教科）には10教科があり、すべての教科に必修科目が設けられている。

共通教科には、国語、数学、外国語のように、高校三年間でおおよそ10単位以上履修し、受験に重要視されている教科がある。これらの教科は各学校における担当教員も大勢必要である。一方、芸術、家庭、情報のように、ほとんど受験に関係なく、大半の生徒が2単位のみ履修しているだけの教科もある。これらの教科は必要な教員数が少なく、場合によって

は教諭が一人も配置されていない学校があり得る。

筆者は文献(2)において、情報を担当する教員の職名別の週担当時数や他教科との兼務の状況を調査している。しかし、ここでは、情報のみに言及しており、他の共通教科を含めた検討をしていない。

そこで、10教科あるすべての共通教科について、教員がどのように配置されているかを調査した。

3. 調査方法

本研究においては、調査対象を愛知県立高等学校とした。2013年度における愛知県立高等学校は148校ある。そこから、人数や授業形態が異なる定時制・通信制を除いた全日制課程だけを対象とした。対象の学校数は146校であった。

調査は学校ごとに毎年度作成している公文書の学校経営案によって行った。まず、設置されている学科を確認した。次に、「教職員名簿」から教員一人ひとりの職名、担当教科、担当教科の週担当時数を調べた。また、「生徒の編成」から学年ごとでクラス数と生徒人数を確認した。

教員は、教頭、教諭、再任用教諭（以下、再任用）、期限付任用教諭・講師（以下、常勤講師）、非常勤講師の5種類の職名に分けた。教科は、共通教科は10教科をそれぞれ区別し、専門教科はすべて一括りにまとめて扱った。なお、情報や家庭のように共通教科と専門教科のいずれにも科目がある教科は双方を分けて扱った。

4. 調査結果と考察

4.1 職名別教員人数の割合

調査対象の学校における全教員数は9,870人であった。教科ごとに職名別での教員人数の割合を求め

たものを図1に示す。人数が多い教諭と非常勤講師のみ図中に割合を数値で示している（以下の図も同様）。なお、複数教科を兼務している教員の場合、2教科なら1/2人、3教科なら1/3人としてそれぞれの教科で数えている。

教諭人数の割合は全体で約3分の2であった。教諭人数の割合が低い教科は、芸術と家庭である。両教科は大半の学校で2単位のみ履修されている教科である。特に、芸術は音楽、美術等の科目ごとに教員免許が分かれており、それぞれ非常に少ない時数のみ設置されている。

4.2 職名別週担当時数の割合

全教員の週担当時数は計123,806であった。週担当時数の割合を職名別で教科ごとに求めたものを図2に示す。教諭の時数の割合が一番低い教科が芸術であることは図1と同じであるが、続いて情報、家庭の順になっている。

一般的に、教諭は週担当時数が他の職名の教員よりも多いため、図1に示す人数の割合よりも図2に示す時数の割合の方が高い。しかし、情報だけは逆に時数の割合の方が低くなっている。これは、次節で示すように情報は兼務が多く、少ない時数だけ担当している傾向にあることが原因である。逆に非常勤の場合は、人数の割合の方が高いことが一般的だが、情報のみ時数の割合の方が高い。

4.3 複数教科兼務の教諭の割合

各教科を担当する教諭を取り上げ、その教科のみを担当している教諭と他教科を含む複数教科を兼務している教諭の割合を図3に示す。兼務している教諭人数の割合は、情報が圧倒的に高く、続いて公民、家庭の順である。公民は1994年度に再編されるまでは共通の社会であった地理歴史との兼務がほとんどである。家庭は専門教科家庭との兼務が多い。

4.4 学科による教員配置の傾向

146校を学科で分けた教員配置の状況を図4に示す。ここでは、教員の平均週担当時数を1クラス当たりにしたものを職名別で示している。学科の中で、普通科は1クラスの平均生徒数が35人を超える学校とそうでない学校に分け、それぞれ普通(多)、普通(少)としている。また、普通科と専門学科の両方がある学校を普通(併)としている。普通(多)、普通(少)、普通(併)、専門学科、総合学科の学校数は、それぞれ70, 9, 24, 35, 8校であった。

全体の時数が多いのは専門学科で、次いで総合学科であった。普通科では、普通(少)の方が普通(多)よりも時数が多かった。生徒数が少ないだけでなく、時数が手厚い体制だといえる。ただし、多いのは、ほぼ非常勤の時数の違いと一致する。

5. まとめ

共通教科の中で、教諭が担当している人数の割合と教諭が担当している週担当時数とを比較して後者が低い教科は情報だけであった。また、情報は複数

教科を兼務している教諭が他の教科と比べて圧倒的に多かった。

参考文献

- (1) 工藤文三: “級編制と少人数指導形態が児童の学力に与える影響についての調査”, 国立教育政策研究所 (2012)
- (2) 深谷和義: “愛知県立高等学校における情報科教員の情報科と他教科担当の現状”, 日本情報科教育学会第2回研究会, vol.2, pp.6-9 (2014)

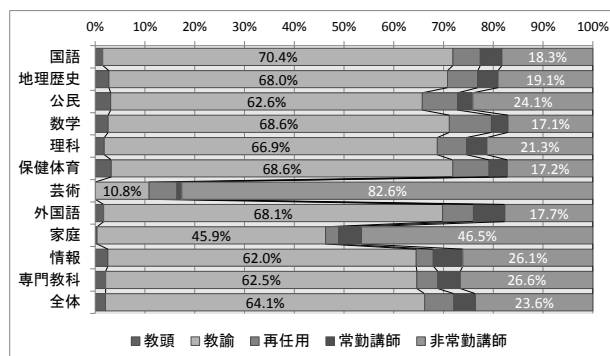


図1 教科ごとの職名別教員人数の割合

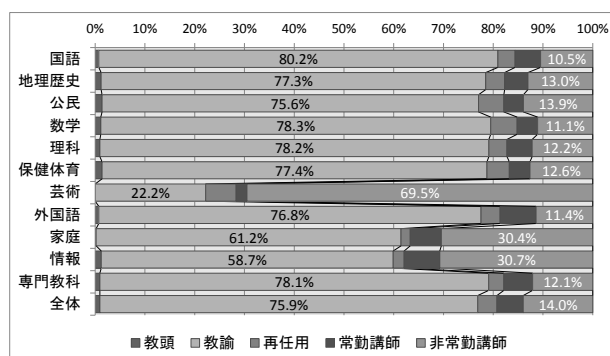


図2 教科ごとの職名別週担当時数の割合

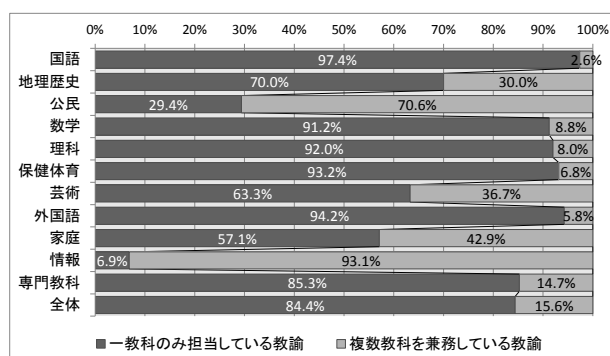


図3 教科ごとの複数教科兼務の教諭人数の割合

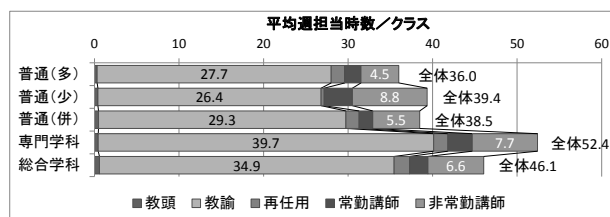


図4 学科別クラス当たりの教員平均週担当時数